

# 高校野球青森大会 青森山田一八学光星

# ライバルの熱戦 称賛

夏の甲子園出場を懸け、八学光星と青森山田が激突した27日、弘前市はるか夢球場のスタンドは両校応援団や野球ファンが埋め尽くし、青森県を代表する強豪校のライバル対決を固唾をのんで見守った。夏の決勝で両雄が相まみえるのは9年ぶり、会場は熱気と緊張感が入り交じる独特の雰囲気。青森山田が8年ぶりの栄冠をつかみ、光星は連覇を逃したが、手に汗握る一戦を演じた両チーム。それぞれの奮闘ぶりに「よく頑張った」「粘り強く戦った」と称賛の声が上がった。

(取材班)



試合終了後、涙をこらえながらもナインの健闘をたたえる八学光星の応援団。27日、弘前市はるか夢球場

## 9年ぶり決勝対決 スタンド沸く

三塁側に陣取った光星のスタンドには、アラスバン、選手のパフォーマンスも集結し、力強い声援で選手を後押し。終始白熱した試合展開にチアリーダーや部員、ヤブテンの3年岩館琴菜さん(17)は「取られたら取り返すのが光星らしい」。青森山田が2点を加えて突き放した最終回、光星が本塁打で反撃すると、同校応援団は拳を突き上げて喜びを表現。最後まで勝利を信じ、声援を送った。

近年、全国でも注目される青森の高校野球界をリードしてきた両校の対決。青森山田の主戦三上世規投手の父満さん(51)は「光星はやっばり強くて、試合中はずっと気が抜けなかった」と振り返った。

あと一步のところまで甲子園の切符に届かなかった光

## 最後の打者まで声援 八学光星 留守部隊



最後まで声援を送った「留守部隊」の生徒ら。27日午後2時40分ごろ、八戸市の八戸学院光星高

星。吉田大樹主将の父明彦さん(48)は「全力で戦った。自分のことより、チームを考えてきたと思う」と息子にねぎらいの言葉。

3番手で登板した向井詩恩投手の母千鶴さん(38)と妹の聖夢さん(16)は互いに手を握りながら観戦し、「一けがもあつたが、気持ちよく途切れることなくここまで来てくれた」「頑張っている姿がかっこ良かった」と目に涙を浮かべた。

来年は100回目の節目を迎える大会。2年福山優希投手の父健一さん(47)は「光星に入って、甲子園に出るのが小学生の頃からの目標。これから一回りも二回りも大きくなってほしい」と力を込めた。

八戸市湊高台6丁目の八戸学院光星高では、「留守部隊」の生徒や教諭ら約80人が大型スクリーンで観戦。接戦をものにならなかったが、最後まで精いっぱい戦ったナインをたたえた。